

「X系」の多義性と意味拡張の方向性について

大志民 彩加

1. はじめに

現代日本語には、「生薬系」「医療系」「かわいい系」など、「系」を漢語接尾辞として用いて、ある種のカテゴリーを表す事例¹⁾が多く存在する。本稿では、このような「X系」の多義性と意味拡張の方向性について考察する。

2. 先行研究について

接尾辞「系」に関する主な先行研究には、中島(2010)、山下(2013, 2015)がある。中島(2010)は、「系」の前接語や後接語にも焦点を当て、4つの用法に分類している。山下(2013)は、「X系Y」という形式の実例から「系」の意味を6つに分類し、その多義構造を示している。また、山下(2015)では、接尾辞「派」も考察対象とし、「草食系」「和食派」など、人物を表す「Y系」「Y派」について分析している。これらの先行研究には参照すべき点も多くあるが、次の問題点があると考えられる。1点目は、意味記述、意味分類に関する点である。例えば、中島(2010)は「新造語」という観点から新奇性の高い事例を中心に考察し、山下(2015)は人物を表す事例に限定しているため、より定着していると考えられる事例や、人物以外的事例(「循環器系(の器官)」など)も含め、更なる用例の検討が必要だと考えられる。2点目は、個々の意味の相互関係に関する点である。中島は「系」の使用の動機付けとして、「表現をあいまい化する語用論的効果」を指摘しているが、個々の用法の相互関係に関する詳細な検討はされていない。また、4節で詳しく述べるように、山下の「系」の多義構造では扱われていない意味があることから、再考の余地があると考えられる。以上を踏まえ、本稿では網羅的に「系」の事例を収集し、より精緻な意味記述を目指すこととする。

3. 考察対象と分析方法

本稿では、Langacker(2000)の「動的使用依拠モデル(Dynamic Usage-based Model)」の考え方を援用する。例えば、靱山(2010)では、同モデルの観点から、「種なし柿」「根なし草」「襟なしシャツ」など、「XなしY」という一つのパターンを考察し、「一般性の異なるもろもろのスキーマ²⁾が抽出され、それらが互いに結びついてネットワークを形成している」と述べている。接尾辞「系」も同様に、「X系」という形式において、一般性の異なるスキーマ(本稿では、次節で述べる「X系」の意味①～⑨)が抽出

され、それらが結び付いてネットワークを形成していると考えられる。また、「系」は、「X系 Y」「X系の Y」「A、B、C…の X系」などの単位で用いられることが多いが、それらの単位において意味的に中核となる要素が「X系」だといえる。以上を踏まえ、本稿では「系」と、それに前接する語句（以下、「X」とする）を含めた「X系」を一つの単位として捉え、その多義性及び意味拡張の様相を考察する。なお、5節では、そのネットワーク形成の動機付けを、意味拡張という観点から明らかにする。

4. 「X系」の多義性

本節では、前節までで概観した先行研究の内容を踏まえ、「X系」の多義性を考察する。なお、以下では、「筑波ウェブコーパス」、検索エンジン「Yahoo! 検索」、朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」、『CD-ROM版新潮文庫の100冊』を用いて収集した「X系」の計313例（延べ語数）の実例の意味記述を踏まえ、その共通点として抽出できる意味を「X系」が有する1つの意味として認定する。

4.1 意味①

意味①：〈何らかの構成要素_xを含む複数のモノによって形成されるカテゴリー〉³⁾

[例：しょうのう系（防虫剤）、塩素系（漂白剤）、アミノ酸系（シャンプー）、クリーム系（パスタ）、水系（アトラクション）、太陽系（惑星）、外資系（企業）など⁴⁾

意味①は、対象に含まれる〈構成要素〉に基づいて、〈複数のモノ〉がカテゴリー化されるケースである。例えば(1)の「生薬系」は、「入浴剤」の〈構成要素〉である「生薬」に基づいて表されている。

(1) 薬用植物を主成分にしたのが生薬系入浴剤だ。⁵⁾

（『朝日新聞』2017年1月21日朝刊）

意味①では、〈対象自体に含まれ、その存在を成り立たせている要素〉を〈構成要素〉としている。そのため、「生薬系」のように、対象の〈具体物としての構成要素〉を焦点化するケースが、意味①の典型的な事例である。一方、「外資系（企業）」の場合、「企業」は〈人や建物、資本などから構成される組織〉であり、その中で「外資（外国の資本）」が「企業」を構成する要素として焦点化されているため、このようなケースは意味①の周辺的な事例として位置付けられる。

なお、このような〈構成要素〉という観点からの記述が見られる先行研究は、管見の限り見当たらない。また、先行研究では、「X系」が何らかの特徴を有するカテゴリーを表すという指摘は見られるが、それが意味記述には反映されていない。そのため、「X系」の全ての意味に対して、〈複数のモノによって形成されるカテゴリー〉という特徴を記述する。

4.2 意味②

意味②：〈何らかの組織_xを中核とするグループに属する複数の組織によって形成さ

れるカテゴリー>

[例：イオン系(スーパー)、三井系(社員)、京阪系(交通会社)、テレビ朝日系(地方テレビ局)、自民党系(市議会)、政友会系(県会議員)、神戸山口組系(組員)など]

意味②は、何らかの<組織を中核とするグループに属する>ことに基づいて、<複数の組織>がカテゴリー化されるケースである。例えば(2)では、「トヨタ自動車」を中核とするグループに属する「デンソー」などの企業が「トヨタ系」と表されている。

(2) (略) 刈谷市には、デンソーやアイシン精機、豊田自動織機といったトヨタ系の企業がたくさんある。
(『週刊アエラ』2017年3月6日)

なお、山下(2013)では、「所属・付属」と記述されているが、「新聞社系サイト」や「旧民社党系グループ」など、Xと対象の所属・付属関係は様々であるように思われる。本稿では「トヨタ系(企業)」のように、対象が<複数の組織>であり、組織Xを中核とするグループに属することを表すケースを意味②として分類した。また、「任天堂系(ゲーム)」のように、対象の<複数のモノ>が何らかの組織Xによって作り出されたことを表すケースは、後述する意味④として分類した。

4.3 意味③

意味③：<ある行為や変化_Xが何らかのプロセスに含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー>

[例：焼く系(スイーツ)、育てる系(アプリ)、身体を動かす系(趣味)、発酵系(微生物)、曲がる系(球種)、運動系(習い事)、回転系(サブ)など]

意味③は、何らかの<行為や変化>というプロセスの一部に基づいて、<複数のモノ>がカテゴリー化されるケースであり、Xは主に動詞(句)、動作性名詞である。例えば(3)の「混ぜる系」は、「まぜそば」などの料理に対して、<スープや具材などを一つにとけ合うようにする>ことが共通していることによって表されている。

(3) 最近、まぜそば・油そばなどの混ぜる系ラーメンにハマっており(略)

(<https://ameblo.jp/santiago1947madrid/entry-12253321092.html>)

なお、山下(2015)では、「農業手伝い系」などについて、「人や集団が(略)習慣的にある行動や行為をする特徴や傾向があることを表す」と記述されている。しかし、<行為や変化>に基づいてカテゴリー化される対象は<人>に限らず、(3)のようなく具体物>もあるため、それらも含めて本稿では1つの意味(意味③)として記述した。

4.4 意味④

意味④：<何らかの空間領域や血筋_Xを出自(出所)とする複数のモノによって形成されるカテゴリー>

[例：ドイツ系(メーカー)、アジア系(留学生)、大陸系(青銅器類)、ハーフ系(モデル)、移民系(議員)、家庭系(ごみ)、任天堂系(ゲーム)など]

意味④は、何らかの<空間領域や血筋を出自(出所)とする>ことに基づいて、<複

数のモノ>がカテゴリー化されるケースである。例えば(4)の「メキシコ系」は、<メキシコで生まれた><メキシコ人の血筋を引く>という特徴に基づき、「インディアン系」は、<アメリカの先住民族の血筋を引く>という特徴に基づいている。

(4) ラスヴェガス行のバスの横に、(略)メキシコ系、インディアン系などもいた。

(藤原正彦『若き数学者のアメリカ』新潮文庫の100冊)

なお、山下(2013)では「血筋」、山下(2015)では「出自」という記述が見られるが、例えば「家庭系(ごみ)」の場合、対象の「ごみ」が<家庭から出されたものである>ことを表すと考えられる。このような事例も含め、本稿では1つの意味(意味④)として認定し、<何らかの空間領域や血筋を出自(出所)とする>と記述した。

4.5 意味⑤

意味⑤：<何らかの分野_xに特化した複数のモノによって形成されるカテゴリー>

[例：舞台系(照明技術)、人文系(出版社)、土木系(職員)、IT系(企業)、ジャズ系(ライブハウス)、カメラ系(雑誌)、芸能系(記事)、交通系(ICカード)など]

意味⑤は、何らかの<分野に特化している>ことによって<複数のモノ>がカテゴリー化されるケースである。例えば(5)では、「医療事務」という職業が、<医療の分野に特化している>ことによって「医療系」と表されている。

(5) (略)医療事務は、医療系の仕事の中でも人気職種として知られています。

(https://min-ten.com/guide/guide_1716/)

なお、山下(2013)では、「洋画系ロードショー」などについて、「専門」と記述されているが、このような事例や、先に挙げた「交通系(ICカード)」などは、対象が<モノ>であり、学問や職業などにおける専門性とは異なると思われる。そのため、本稿ではこれらの事例も含めて、<何らかの分野に特化した>と記述した。

4.6 意味⑥

意味⑥：<何らかの(総称によって表される)類_xに属する複数のモノ(種)によって形成されるカテゴリー>

[例：柑橘系(オレンジ)、揚げ物系(エビフライ)、ファストフード系(マクドナルド)、商社系(日本ユニシス)、ピンク系(ベビーピンク)、公理系(公理)など]

意味⑥は、何らかの<(総称によって表される)類>に属する<複数のモノ(種)>がカテゴリー化されるケースである。例えば(6)では、「体液を決まった形で流動させるための器官」の総称が「循環器」とであると述べられており、「血管」や「心臓」などが<種>、「循環器」が<類>という関係にあると言える。

(6) 「循環器」とは、体液を決まった形で流動させるための器官、つまり循環器の体系を指すものです。具体的には、血液の通り道である血管と、血液を循環させる役割をする心臓などをまとめ、循環器系と呼びます。

(<https://www.nipro.co.jp/sukoyakanet/37/>)

このように、意味⑥では、「X系」に位置付けられる対象の〈総称〉がXであるといえる。なお、このような〈総称〉や〈種類関係〉という観点から意味区分をしている先行研究は、管見の限り見当たらない。

4.7 意味⑦

意味⑦：〈何らかのモノ_Xらしいと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

[例：食事系(パンケーキ)、軽食系(商品)、昭和系(居酒屋)、洋食喫茶店系(メニュー)、大人系(ファッション)、インドア系(性格)、アウトドア系(ブランド)など]

意味⑦は、主体⁶⁾が〈複数のモノ〉に対し、〈Xらしいと感じられる特徴〉を捉えることでカテゴリー化されるケースである。例えば(7)では、「秋葉系(ファッション)」について、〈メガネ〉などの具体的な特徴が述べられている。これらの特徴は、「秋葉原(にいる特定の人々)」に結びつく百科事典的な特徴であり、「秋葉原(にいる人々)全体」が有する特徴とは言い難いため、ステレオタイプ的な特徴であるといえる⁷⁾。

(7)では秋葉系ファッション＝オタクファッションとはどんなものをいうのでしょうか？その代表として挙げられるのが、メガネ・リュック・Tシャツ(略)などです

(<https://www.rcawaii.com/blog/fashionyougocheck/11105>)

なお、中島(2010)では、「典型的なカテゴリー成員の焦点化」と「認識的モダリティ表現としての解釈による周辺の構成員の焦点化⁸⁾」という2つの用法を挙げているが、これらは本稿の意味⑦に相当すると考えられる。例えば、「洋食喫茶店系(メニュー)」であれば、「(主に洋食料理を出す)喫茶店」にある料理の典型例(カレーなど)が焦点化されているといえる。一方、中島(2010)では述べられていないが、「昭和系(居酒屋)」の場合は凡そ、〈昭和らしい懐かしさを感じさせる居酒屋〉として捉えられるため、「昭和」の理想的な特徴⁹⁾が焦点化されているといえる。このように、本稿では、Xの表す名詞に関する何らかの百科事典的な知識に基づいて、主体が〈Xらしさ〉を捉えるケースを包括し、意味⑦として分類した。

4.8 意味⑧

意味⑧：〈何らかのモノ_Xに類似していると感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

[例：肉食系(女子)、猫系(女子)、ジャニーズ系(新入社員)、エグザイル系(男性)、アイドル系(女子)、二郎系(ラーメン)、体育会系(会社)、塩系(インテリア)など]

意味⑧は、主体が〈複数のモノ〉に対して、Xとの類似性を感じることでカテゴリー化されるケースである。例えば(8)では、〈異性との交際に消極的である〉という特徴を有する若者が「草食系」と表されている。

(8)最近、異性との交際に消極的な若者を「草食系」と呼び、恋愛論を語るブームが続いています。
(『朝日新聞』2010年7月10日朝刊)

これは、「肉食(動物)」と比べ、「草食(動物)」は<他の動物を襲わない>などの百科事典的特徴を有するため、「異性ととの交際に消極的な若者」と「草食(動物)」から<対象への積極性がない>というスキーマが抽出され、両者に類似性が感じられるために当該の若者を「草食系」と表しているといえる。なお、このようにXがメタファー¹⁰⁾を表すケースは、中島(2010)、山下(2013, 2015)においても指摘されている。

4.9 意味⑨

意味⑨：<何らかの評価的特徴_Xが感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリ>

[例：甘い系(服)、意識高い系(人)、がっつり系(メニュー)、ゆるふわ系(女子)、地味系(おかず)、癒し系(キャラクター)、味わい系(発泡酒)、モテ系(服)など]

意味⑨は、主体が何らかの<評価的特徴>を感じることで、<複数のモノ>がカテゴリ化されるケースであり、Xは主に形容詞、形容動詞、副詞、動詞連用形の転成名詞である。例えば(9)では、話者が「ピンクのガーベラ」に対し、<見た目が愛らしい>と評価していることによって、「かわいい系」と表されているといえる。

(9) (略) かわいい系のピンクのガーベラに、ひとつだけさりげなく深い赤色のガーベラを添えて(略) (<http://www.floralshop.jp/index.php/products/detail/365>)

なお、山下(2013)では、「癒し系ロボット」などについて、単に「状態・性質」と記述されているが、(9)の「かわいい系」なども含め、これらは主体の評価的な基準に基づいて対象がカテゴリ化されるケースであるといえるため、本稿ではより詳しく<何らかの評価的特徴が感じられる>と記述した。

以上、本節では「X系」の多義性について考察した。

5. 「X系」の意味拡張

本節では、前節で認定した9つの意味の相互関係について検討する。先に結論を述べると、9つの意味全体において、各意味はメタファーにより拡張していると考えられる。以下では、各意味間から抽出されるスキーマと拡張の方向性について述べる。

まず、意味①と意味②からは、スキーマA<何らかの存在を含む複数の存在によって形成されるカテゴリ>が抽出できる。ただし、意味①は視覚などの知覚によって捉えられる具体性の高い特徴であるため、意味②の方が「X系」の意味としてより周辺に位置付けられるといえる。そのため、意味①から意味②という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味①と意味③からは、スキーマB<何らかの事物を含む複数のモノによって形成されるカテゴリ>が抽出できる。ただし、「X系」は全体的にXが名詞であるケースが多い中、意味③のXは主に動詞(句)などであるため、「X系」の意味としてより周辺に位置付けられるといえる。そのため、意味①から意味③という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味①と意味④からは、スキーマC<何らかの存在をルーツとする複数のモノによって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、意味④の<出自(出所)としてのルーツ>と、意味①の<(物理的な)構成要素としてのルーツ>を比べると、前者の方がより抽象的であると思われる。そのため、意味①から意味④という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味④と意味⑤からは、スキーマD<何らかの範囲に含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、意味④の<空間領域>や<血管>はより具体性の高い<範囲>であり、意味⑤の<分野>は、ある学問や職業などにおける抽象的な<範囲>であるといえる。そのため、意味④から意味⑤という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味②と意味⑥からは、スキーマE<何らかの存在に帰属する複数の存在によって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、意味②は「組織Xを中核とするグループに属する」という明確な基準に基づくカテゴリーであるが、意味⑥は「ピンク系(の色)」のように境界が不明瞭なカテゴリーを表すケースもある。つまり、意味②の方が、対象があるカテゴリーに含まれるか否かの判断がされやすいといえる。そのため、意味②から意味⑥という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味⑤と意味⑦からは、スキーマF<何らかの弁別の特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、意味⑤は主に職業など、何らかの社会的属性を表すため、対象があるカテゴリーに含まれるかの基準が分かりやすいケースが多いが、意味⑦はXが表す名詞の百科事典的な特徴に基づいてカテゴリー化されるケースであり、主体の違いによって対象があるカテゴリーに含まれるかの判断に差が出やすいといえる。そのため、意味⑤から意味⑦という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味⑦と意味⑧からは、スキーマG<何らかの百科事典的な特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、意味⑧は、意味⑦(や他の意味)と異なり、Xが字義通りではなくメタファー表現として用いられているため、意味⑦よりも周辺に位置付けられると考えられる。そのため、意味⑦から意味⑧という方向性で拡張していると考えられる。

次に、意味⑧と意味⑨からは、スキーマH<何らかの主体による判断、認識に基づく特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー>が抽出できる。ただし、Xが名詞であるケースが多い中、意味⑨のXは主に形容詞などであるため、「X系」の意味としてより周辺に位置付けられるといえる。そのため、意味⑧から意味⑨という方向性で拡張していると考えられる。

最後に、単純語の「系」との関わりから、「X系」の多義構造全体における拡張の方向性を検討する。例えば、「科学の目的は(略)世界を理解することであるが(略)、通常はその中の興味のある部分を切り取って科学的研究の対象とする。その切り取られたものが「系」である。(https://www.kousakusha.com/ks/ks-t/ks-t-3-33.html)」のように、

単純語の「系」は、主に科学などの学問分野における用語であり、その意味は凡そ、<ある学問分野で研究対象として捉える複数の要素によって形成されるまとまり>だと考えられる。つまり、単純語の「系」は凡そ、<(研究対象とする上で)境界が明確に定められている>という特徴を有するといえる。

そして、「X系」の9つの意味には、明確な条件によるカテゴリもあれば、明確な条件によらないカテゴリもある。即ち、「X系」の意味は、大きな拡張の方向性として、(より単純語の「系」の意味に近い)境界が明瞭なカテゴリの意味から、境界が不明瞭なカテゴリの意味へ拡張していると考えられる。まず、前者に関しては、例えば「生薬系」(意味①)は、「生薬」が対象に含まれているか否かの判断がしやすく、「トヨタ系」(意味②)も、対象の「企業」が「トヨタ自動車」を中核とするグループに属するという明確な基準がある。一方、後者に関しては、例えば「草食系」(意味⑧)は、対象の「若者」が<恋愛に消極的>であるかは明確に判断できるものではなく、「かわいい系」(意味⑨)は、主体によってその評価に差が出やすい。このような拡張の方向性は、単純語の「系」が有する<境界が明確に定められている>という特徴が、「文文化」の過程の中で「漂白化」し¹¹⁾主体の判断や認識の程度が高まっているためであると考えられる。なお、松本(2009)は、多義語の中心義には「概念的中心性」と「機能的中心性」という2つの性質があることを述べている。この中で、「多義語の構造において、他の個別の意味の派生の基盤となるような、概念的に最も基本的な意味を中心に据えた方が、カテゴリの構成のためには有益」とし、これを「概念的中心性」としている。一方、「一番よくアクセスする意味を中心に据えた方が、伝達活動のためには有益」とし、これを「機能的中心性」としている。以上を踏まえると、「X系」は、先の文文化の過程や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生(拡張)の基盤となる意味であり、松本の述べる概念的中心性を有すると考えられる¹²⁾。

最後に、9つの意味により形成される「X系」の多義構造を図示する(図1)。

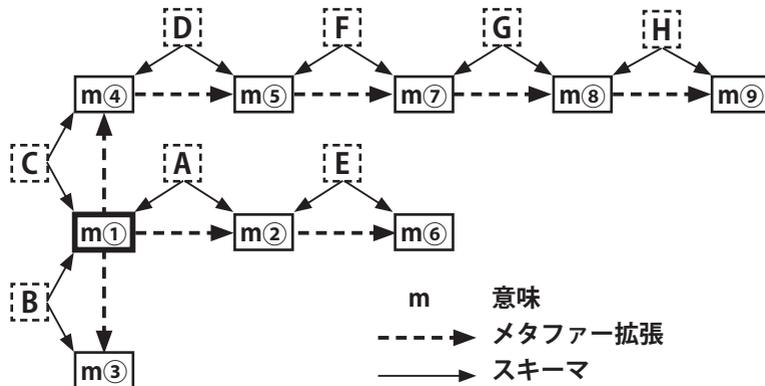


図1:「X系」の多義構造

6. おわりに

以上、本稿では、現代日本語における「X系」に9つの意味を認め、その相互関係を明らかにした。また、カテゴリーの境界が明瞭な意味から不明瞭な意味へと拡張しているという大きな拡張の方向性を指摘した。

なお、今後は「X系Y」など、より大きな単位についても考察し、その中での「X系」の意味が、全体の意味に対してどのように貢献しているのかを検証していきたい。また、「X系」と同様、何らかの特徴を有するまとまりを表すと思われる他の接尾辞（「派」「風」など）も分析し、カテゴリー化の様相の多様性について明らかにしていきたい。

注

- 1) 本稿では主に接尾辞としての用法に着目する。なお、本稿では、Xが自立形式ではない事例（「傍系」など）は除外した。このような事例をどのように扱うべきかの検討は、今後の課題とする。
- 2) 「スキーマ」とは、「複数の事例から一般化して取り出した共通点のこと（舩山2010: 102）」である。
- 3) 本稿では、「X系」が有する個々の意味や、部分的な意味特徴、スキーマなど、様々なレベルの意味を<>で括って記述する。また、意味記述の中で、特にXによって動機付けられていると思われる意味特徴に.....を引き、下付きでXを施す。
- 4) 「X系」というカテゴリーに位置付けられる対象を各事例の後の（）内に明記する（以下、「対象」と呼ぶ）。例えば「X系のY」や「X系Y」における「Y」、あるいは「A、B、C...のX系」における「A、B、C」が「対象」である。
- 5) 例文の「X系」には___を施す。
- 6) 「主体」とは、「X系」を用いて対象をあるカテゴリーに位置付ける存在を指す。
- 7) 舩山（2010: 94）は「その語から想起される（可能性がある）知識の総体」を「百科事典的意味」とし、「（ある言語共同体において）あるカテゴリーの成員全般に関して、十分な根拠なしにある特徴を有すると広く信じられてはいるが、実際にそのような特徴を有するのは、カテゴリーの一部であるという場合に、そのような下位カテゴリーのこと（舩山2010: 96）」を「ステレオタイプ」としている。
- 8) 中島（2010: 170）は「認識的モダリティ表現としての解釈による周辺的な構成員の焦点化」について、「っばい」のように解釈され、周辺的な構成員、または近いながらも外延に含まれないものが焦点化される用法であるとしている。
- 9) 舩山（2010: 96）は、「（ある言語共同体において）あるカテゴリーの中で、（何らかの観点から見て）理想的な（一群の）特徴を有する下位カテゴリー」を「理想例」としている。
- 10) 舩山（2010: 35）は、「2つの事物・概念の何らかの「類似性(similarity)」に基づいて、本来は一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩

を「メタファー」とし、メタファーにおける2つの事物・概念からはスキーマが抽出できることを述べている。

- 11) 三宅(2005: 62-63)は「文法化」を「内容語だったものが、機能語としての性格を持つものに変化する現象」とし、実質的な意味が抽象化、希薄化、あるいは消失する「漂白化」の側面を指摘する。なお、文法化は主に通時的研究において考察されてきた現象だが、三宅は現代日本語における文法化という共時的研究としての意義を述べている。そこで、本稿でも文法化を共時的なレベルに適用させるものとする。
- 12) なお、「X系」の機能的中心性に関しては、今後慎重に検討していきたい。

参考文献

- 中島晶子(2010)「新造語における「度」「系」「力」の用法」大島弘子・中島晶子・プラン・ラウル編『漢語の言語学』pp.159-175 くろしお出版
- 松本曜(2009)「多義語における中心的意味とその典型性：概念的の中心性と機能的の中心性」『Sophia linguistica』57 pp.89-99 上智大学国際言語情報研究所
- 三宅知宏(2005)「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐって—」『日本語の研究』1-3 pp.61-76 日本語学会
- 靱山洋介(2010)『認知言語学入門』研究社
- 山下喜代(2013)「接辞性字音形態素の造語機能」野村雅昭編『現代日本漢語の探求』pp.83-108 東京堂出版
- 山下喜代(2015)「漢語接尾辞「系・派」について—人物を表す派生語の分析を中心に—」『青山語文』45 pp.112-125 青山学院大学日本文学会
- Langacker, Ronald W. (2000) A Dynamic Usage-Based Model. In: Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage-Based Models of Language*, pp.1-65. Stanford: CSLI Publications. (坪井栄治郎訳(2000)「動的の使用依拠モデル」坂原茂編『認知言語学の発展』pp.61-143 ひつじ書房)

(名古屋大学院生)